

人口減少対策に係る市民アンケート調査

[結 果]

1. 調査概要

富良野市の若い世代（18～39歳）の生活や子育てに対する意識を把握するためアンケート調査を行った。

(1) 調査対象

2015年（平成27年）4月10日現在の住民基本台帳に登録されている18歳から39歳の方の中から無作為に抽出した1,200人

(2) 標本数

1,200件

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(4) 調査期間

2015年（平成27年）4月20日～5月1日

(5) 回収状況

発送数	回収数	回収率
1,200件	363件	30.3%

【集計・表記方法に関する留意事項】

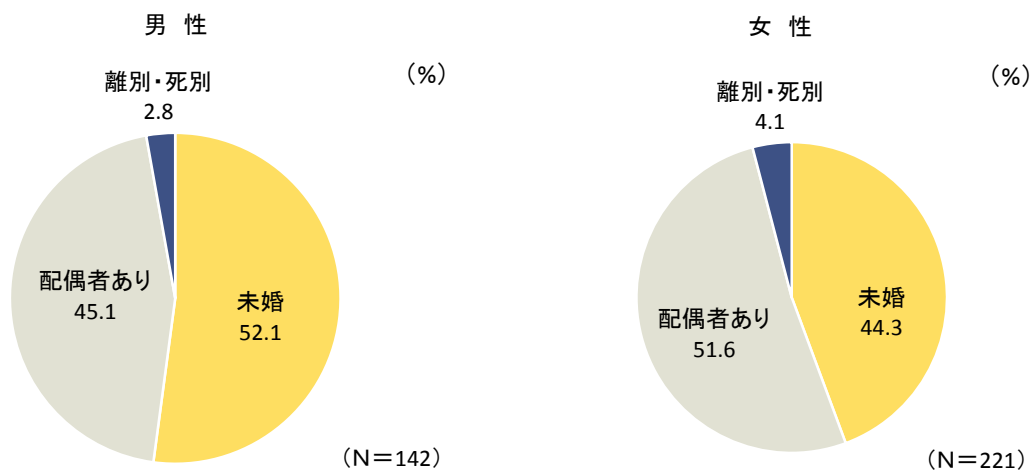
- ・集計結果は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを百分率(%)で表示している。そのため、構成比の和が100.0%にならないことがある。
- ・本文やグラフ中の選択肢は、調査票の言葉を短縮しているものがある。

2. 調査結果

(1) 回答者の属性

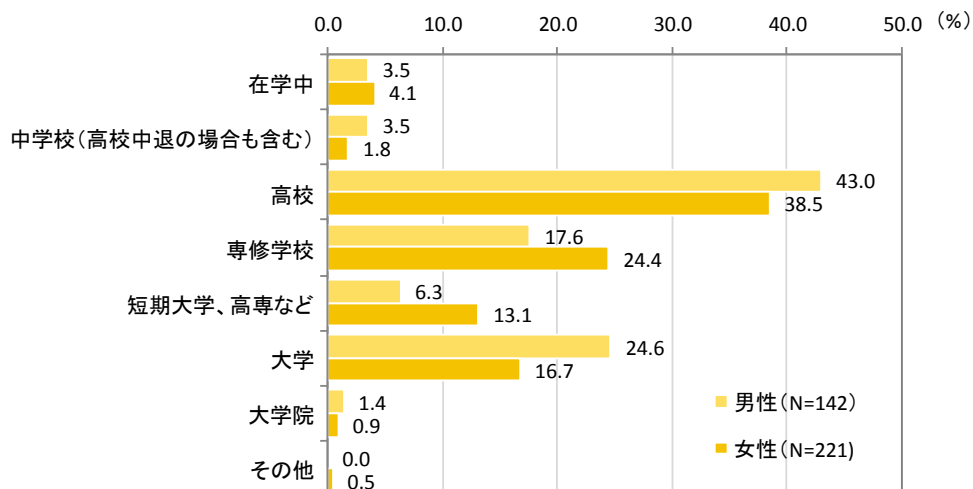
回答者の有配偶者の有無についてみると、男性の 45.1%、女性の 51.6%が配偶者ありと回答している。

図表● 有配偶の有無



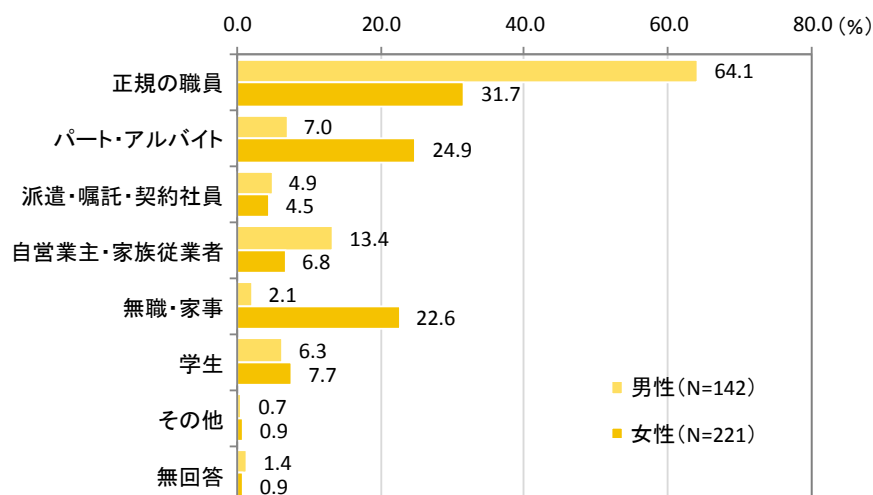
最終学歴については、高校と回答した人が男性では 43.0%、女性では 38.5%となっている。最終学歴は大学と回答した人は男性 24.6%、女性 16.7%であり、現在の大学進学率 48.1%を加味すると、大学進学したの人のうち U ターンできているのは一部であるといえる。

図表● 最終学歴



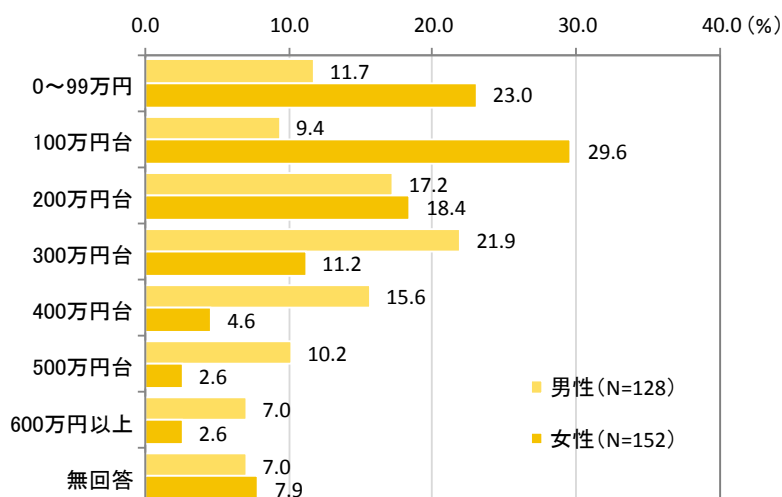
現在の勤務状況をみると、男性では正規の職員が 64.1%、自営業主・家族従業者が 13.4% であり、合わせると 77.5%となっている。一方、女性では正規の職員が 31.7%である。次いで、パート・アルバイトが 24.9%、無職・家事が 22.6%となっている。

図表● 現在の勤務状況



年収を得ている人に平成 26 年の年収をたずねたところ、男性では 200 万円台～400 万円台に広く分布しているのに対して、女性は 0～99 万円、100 万円台～200 万円台に分布が広がっており、男女間の職業の違い、収入の違いがみられる。

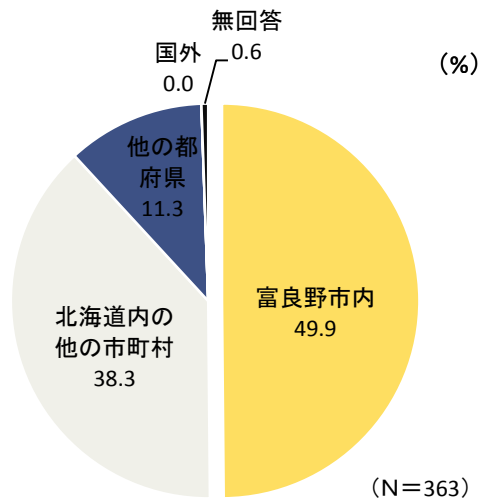
図表● 昨年の年収



(2) 富良野市に住み続けたいか

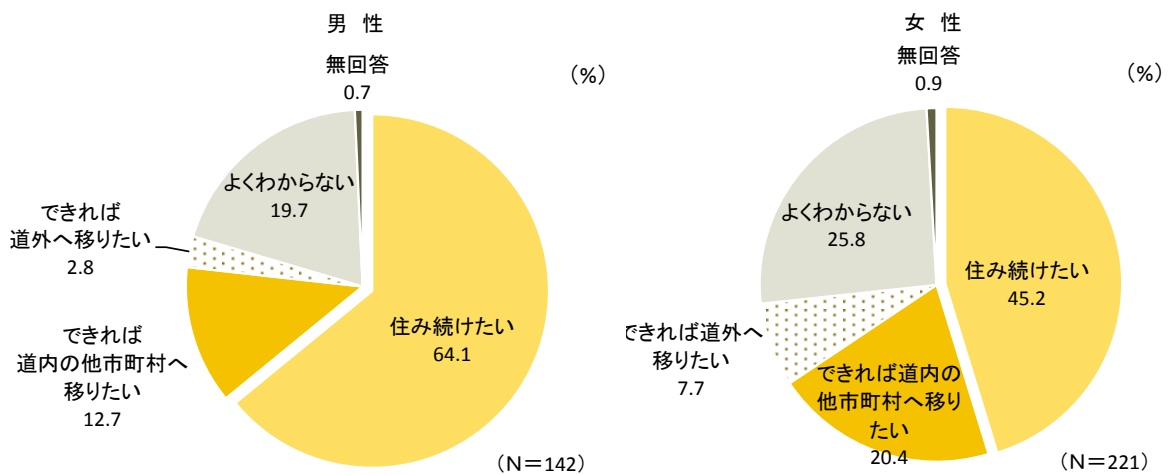
回答者のうち 49.9%は富良野市内で生まれており、富良野市生まれ、富良野市育ちという方が比較的に多いといえる。

図表● 生まれた場所

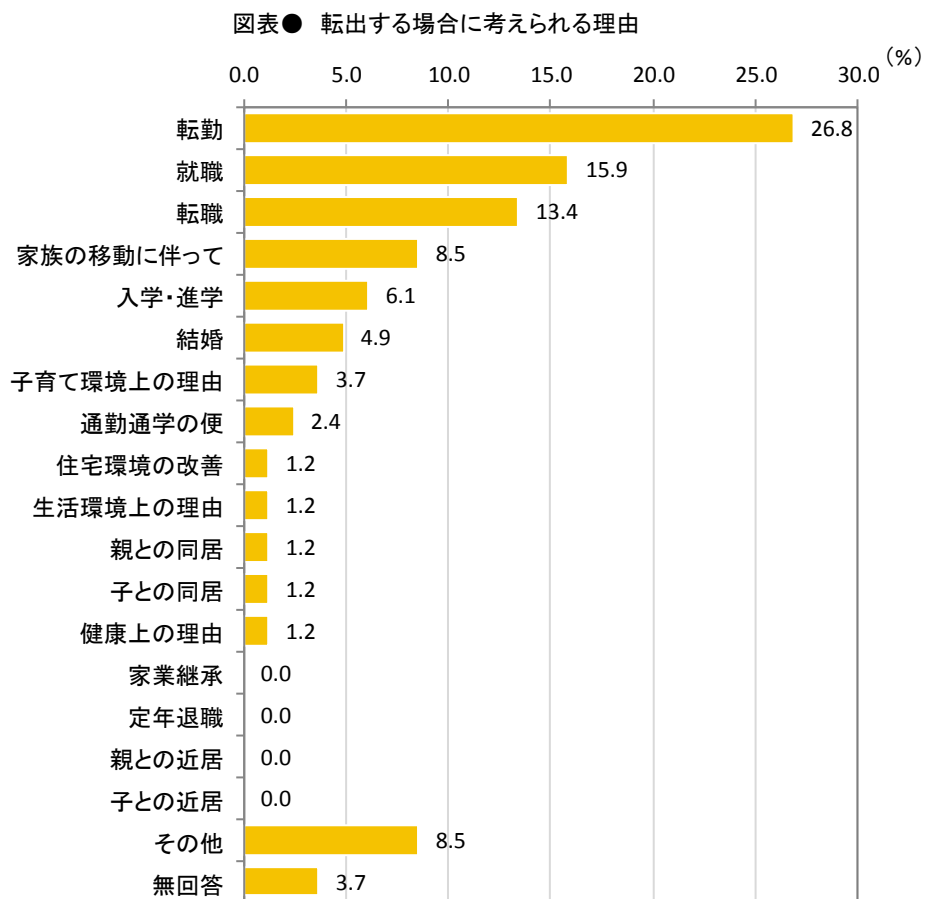


富良野市に住み続けたいかとたずねたところ、男性では 64.1%、女性では 45.2%が住み続けたいと回答している。男性と比べて、女性で他の地域に移り住みたいという意向が高く、将来女性の定住を検討していく上で重点的に解決を図る点といえる。

図表● 富良野市に住み続けたいか



転出する場合に考えられる理由としては、転勤（26.8%）、就職（15.9%）、転職（13.4%）であり、「雇用」が社会移動の中心であることがはっきりとしている。

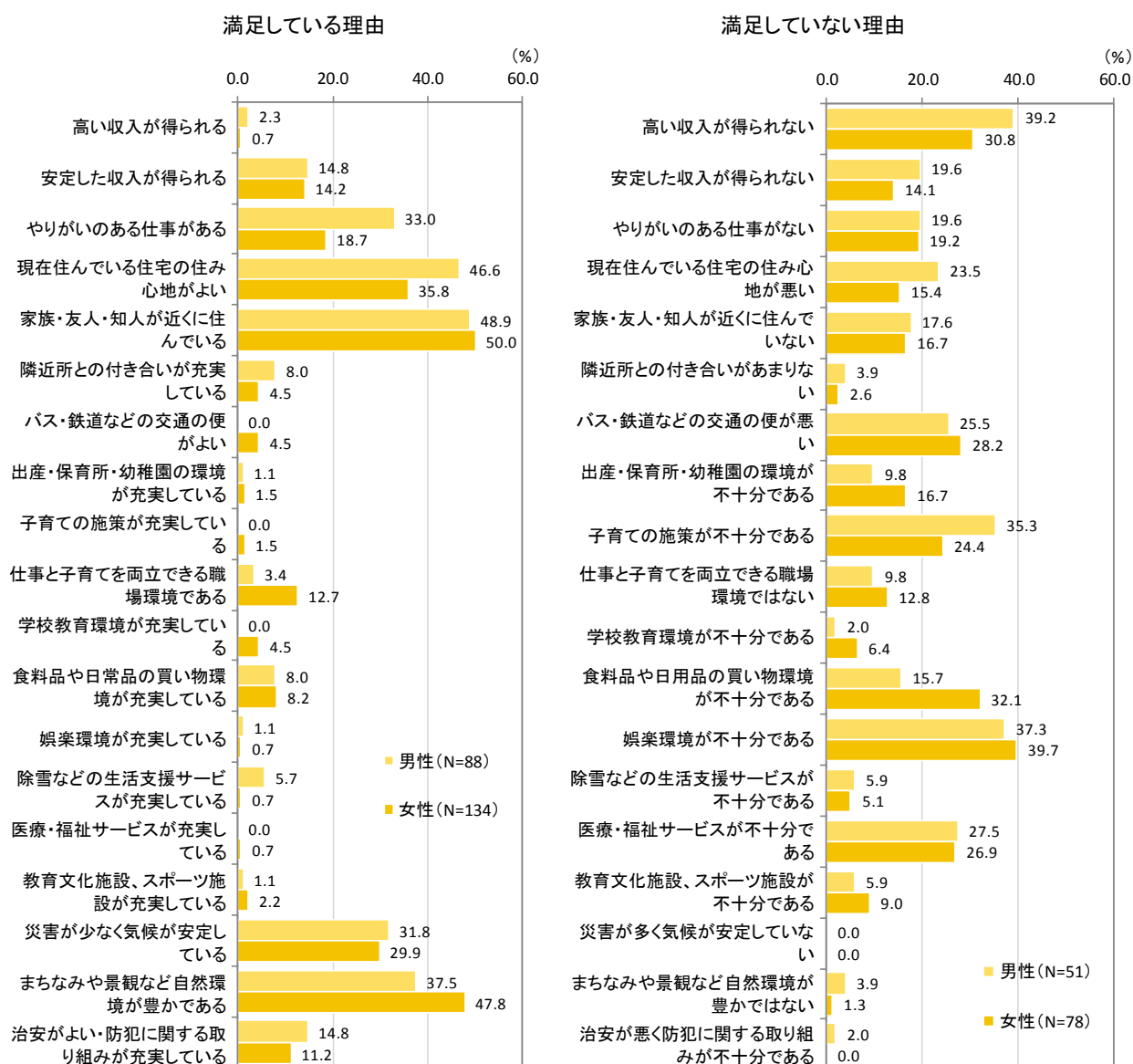


(N=82)

富良野市に住んで満足している理由としては、「家族・友人・知人が近くに住んでいる」が最も高く、次いで「現在住んでいる住宅の住み心地がより」「まちなみや景観など自然環境が豊かである」などが続いている。

一方、満足していない理由としては、「娯楽環境が不十分である」が最も高く、次いで「高い収入が得られない」「医療・福祉サービスが不十分である」「子育ての施策が不十分である」などがあげられている。

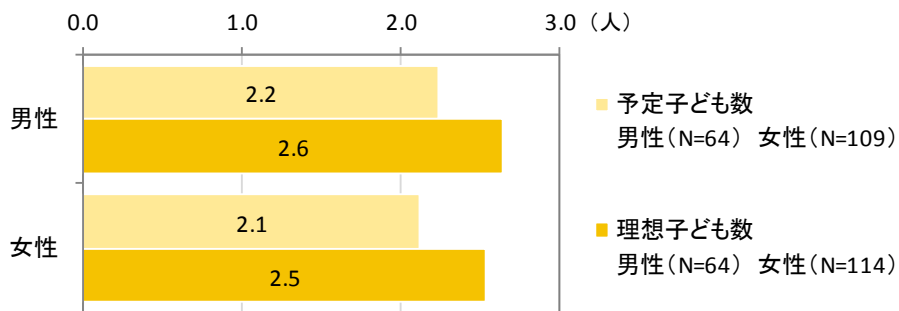
図表● 満足している理由、満足していない理由



(3)結婚・子育てについて

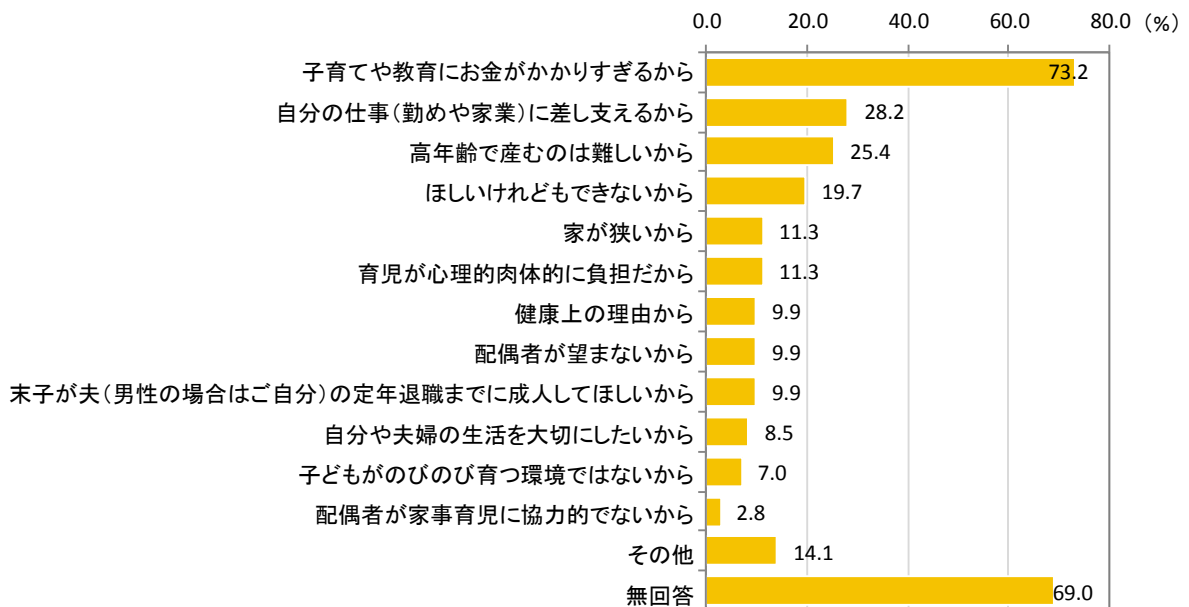
配偶者のいる方、配偶者と離別・死別した方に、現在持っている子どもの数と将来持つ予定の子どもの数を足した「予定子ども数」をたずねたところ、男性では2.2人、女性では2.1人となった。さらに、子育ての際の障害が全くなかった場合、理想として持ちたい子どもの数についてたずねたところ、男性では2.6人、女性では2.5人となった。

図表● 予定子ども数、理想子ども数



予定子ども数が理想子ども数を下回っているがその理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が73.2%と非常に高い回答数になっている。次いで「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」「高年齢で産むのは難しいから」となっている。

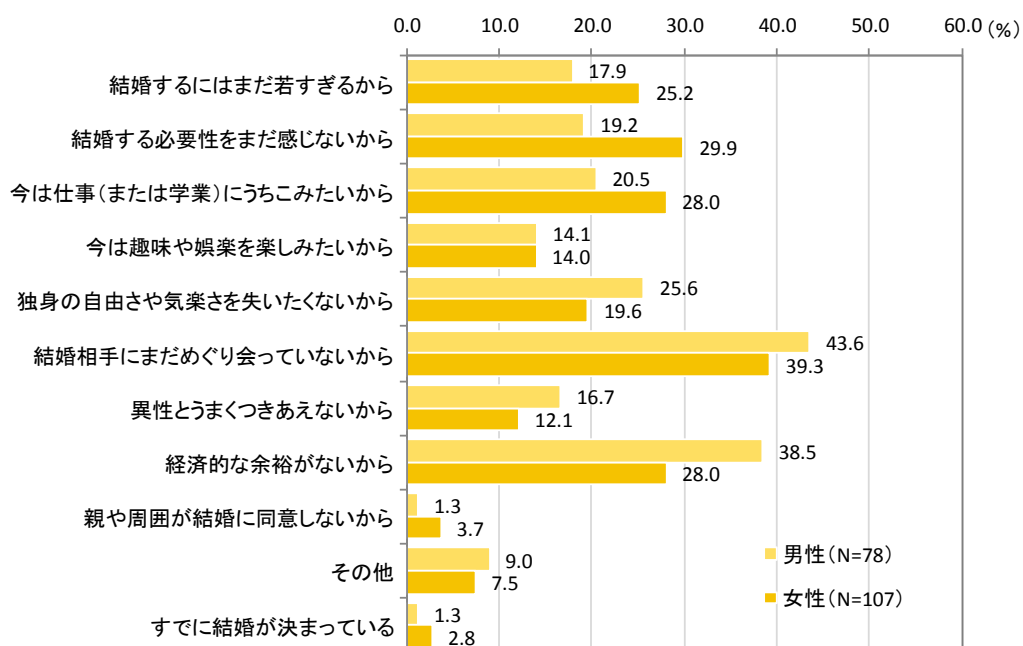
図表● 予定子ども数が理想子ども数より少ない理由



(N=71)

未婚の方に現在独身でいる理由をたずねたところ、「結婚相手にまだめぐり会っていない」が最も高かった。次いで、「経済的な余裕がないから」となっており、特に男性で38.5%と回答の割合が高くなっている。

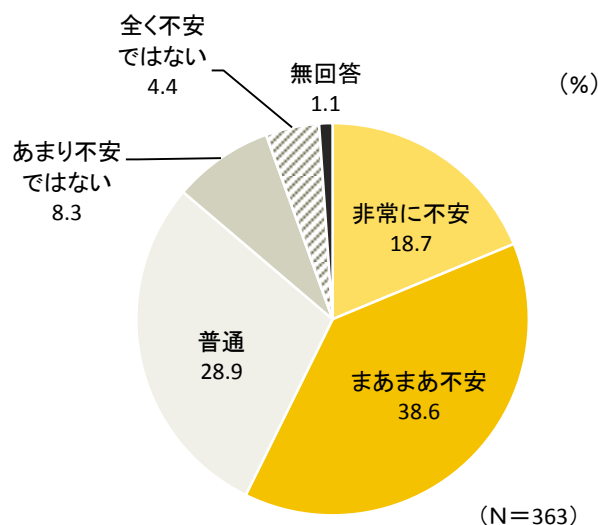
図表● 現在独身でいる理由



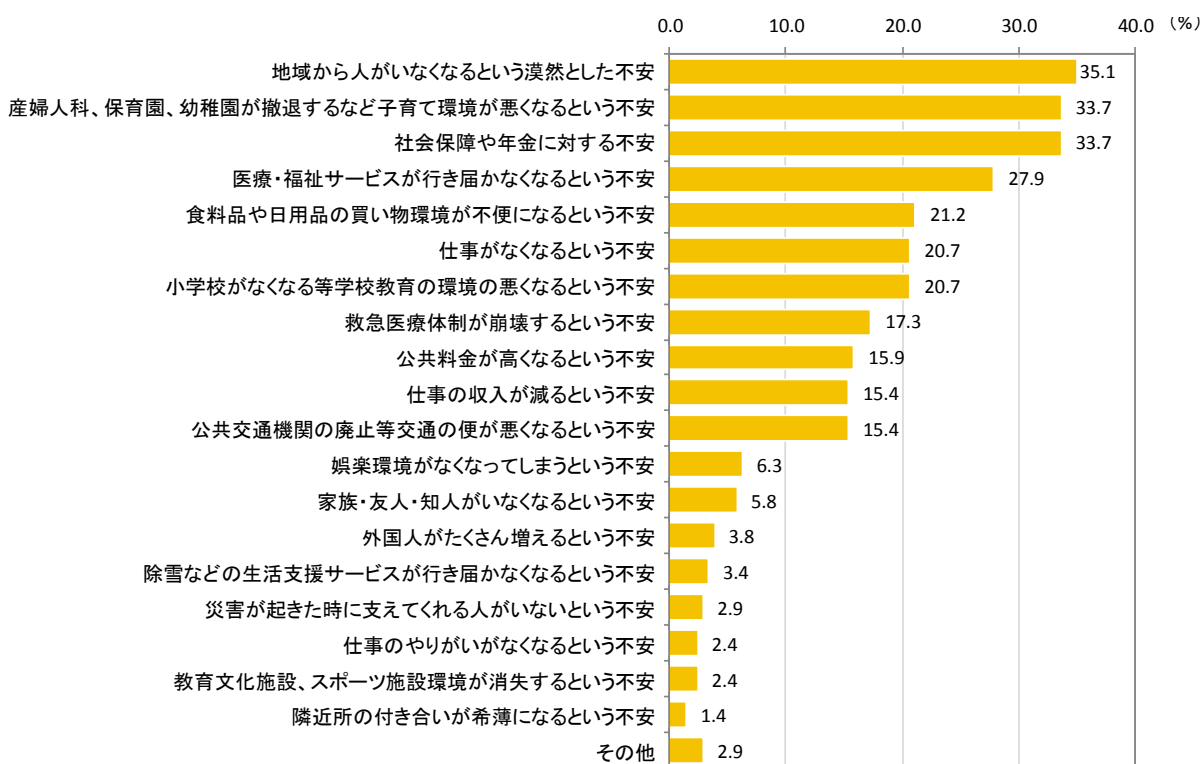
(4)人口減少に対する意識

人口減少に対して不安を持っている方（非常に不安+まあまあ不安）は、全体の57.3%である。特に、不安の中身としては「地域から人がいなくなるという漠然とした不安」が35.1%、「産婦人科、保育園、幼稚園が撤退するなど子育て環境が悪くなるという不安」と「社会保障や年金に対する不安」が33.7%となっており、安定した社会システムが崩れるのではないかということに対する不安が高くなっている。

図表● 人口減少が進むことへの将来の不安



図表● 人口減少が進むことへの将来の不安



(5)自由記入

人口減少対策において富良野市が優先的に取り組むべき事項にはどのようなものがあるかたずねた結果は以下のとおりであり、「出産・子育て」「生活」「雇用」などに対する回答が多くなっている。

図表● 人口減少対策として富良野市で優先的に取り組むべき事項

(複数回答)

主な分野	件数	%
出産・子育て	105	44.7%
生活	50	21.3%
雇用	45	19.1%
若者	34	14.5%
移住・定住	30	12.8%
行政	10	4.3%
医療	10	4.3%
農業	8	3.4%
観光	7	3.0%
教育	7	3.0%
高齢者	3	1.3%
その他	35	14.9%
全体(回答数)	235	

主な意見は以下のとおり。

①出産・子育て

- ・子育て世代が子供を産み育てたい、また育てられると自信のもてる環境づくり。例えば、妊婦健診は無料診療とか出産に伴う入院費用の無料化。また幼稚園入園前までは紙おむつのクーポンを配布するなど。地域医療においても産婦人科、小児科はまだ十分ではないし、皮膚科や眼科の開業医院があってほしい。子供が自由に楽しく遊べる施設がないので作ってほしい(冬も)。まずは子育て世代が安心して子供を産み育てていく環境が整っていないと移住者も増加しないと思う。(女性、35～39歳)
- ・子どもを育てていく上で十分な収入が得られないため共働きができる環境を望んでいます。保育園での待機児童がいると知ってしまうと子供をたくさん授かりたいけど十分に育児していくには難しい。産みたくても産めない。(女性、20～24歳)
- ・金銭的補助をもっとすべき。産休、育休を増やす。パート等でも出産のためいったん仕事をやめて、時期がきたら再就職を探すのではなく、正社員でなくても産休や育休に近い制度があってもいいと思う。また、仕事復帰するにあたり、託児所がある所が少ないので、子どもがいて仕事を探すには職場に限られる。保育園は金額が託児所よりも多分

高いと思うので、出来れば託児所がある所がいいと思うので。(女性、20～24歳)

- ・子育てがしやすくすべきである。子供はやはり病気をしやすいので、病院でお金の負担が減ると助かる。子供をあそばせられる施設があると親同志のコミュニケーションがはかれて、きょうだいを！！という話もあり、子供が増える！なんてこともあるかも？(女性、25～29歳)
- ・紙おむつや衛生用品の（収集日、増やしていただけますか？）ごみ袋を購入するための補助券（補助が必要） ・小学生まで医療費無料。一番医療にお金がかかる年代なので。 ・子どもの生活用品やおもちゃなどを買えるお店が必要。隣の大きな市まで買い出しに行かなくてはならない。 ・雨の日にも遊べる（午前中にも遊べる）屋内のあそぶ場所をつくって欲しい。 ・富良野に引っ越してきて、“子育てに冷たい市”という印象が強いです。安心して「ここだったら育てたい」と思える街づくりを考えていただきたいと思います。(女性、35～39歳)
- ・富良野市は離婚率の高い市にもかかわらず母子・父子家庭における高卒以降の進学希望者への支援が行き届いていない。例えば、経済的諸事情により苦しくも高卒後継続して進学できない者に対する教育的支援、経済的支援があまりにもない。これでは日本国民が保有すべき教育を受ける権利が弱者には無い事になる。例え苦学のすえ進学を果たしたとしても莫大な返済を抱え就職先もろくになく福祉に偏りのある頼りにならないこの市に戻ってくる気にさえならない。母子・父子家庭において保護者が病弱である場合その子供は進学を断念すべきなのであろうか？ただ絶望感を抱え生きるより他にない現実を理解していただきたい。(女性、18～19歳)

②生活

- ・有名な観光地であり観光に力を入れるのも良いと思いますが、地域住民のためにも力を入れてほしい。地域住民がもっと住みやすく、商業施設をもっと充実させてくれたら、観光客以外でももっと富良野に住みたいという人が増えると思います。(女性、30～34歳)
- ・公園や図書館が充実してくれたらいいと思う。そういったものに魅力を感じて住みたいと思うのでもう少し考えて住みたいと思うものを作ってほしい。たとえば麓郷街道で何十億もかけて道を少し作るなら自然公園とか作ってほしい。(富良野の魅力は自然なのに)地元の人はおかしいと思っています。(女性、35～39歳)
- ・買い物が不便。お店が少ないから値段の競争もなく高めだし、品数も少ないので結局、市街へ買い物に行ってしまう。飲食店も観光客向けの値段で、市民がちょっと外食した

い時には、家族が行くには高すぎる。子供がのびのびと遊べる広い公園や施設（無料）があるといい。せっかくステキな「富良野」という街なのに観光では来るが、住むと不便...というのはもったいないです。人口が増えることを願っています。（女性、30～34歳）

- ・交通の便は良いのに時間が合っていない（札幌最終 21 時発なので趣味等では早すぎ）のでそっちに住むのも良いなと思っている人が割といます。（女性、30～34歳）
- ・賃貸等住宅の家賃が平均的に高いので住む場所の選択肢が限られてしまう。特別大きな市ではないが物価が高い。（燃料等）（男性、25～29歳）

③雇用

- ・以前の様にドラマの影響で移住してくる人ももう少ないと思うので、若者に魅力ある街づくり（仕事面も）が大切だと思います。子育て支援は充実していると実感しますが、復職出来そうな仕事が限られるのももう少し選択肢が欲しいところです。（女性、35～39歳）
- ・私が富良野に住んだのは就職先だったからという理由が大きいですが、今、富良野に育った子供達が富良野に住み続けたいと思うのであれば、やはり就職先があるかどうかだと思います。どんなに住みたいと思う町でも就職先がなければ他の町へ行かざるをえないからです。（男性、35～39歳）
- ・賃金が安い。道外から来る人には生活レベルが下がるので生活が苦しくなると思う。通年雇用をしてくれる所が少ないと思う。（女性、30～34歳）

④若者

- ・富良野市は物件の数が少なく、そのため家賃が高い場合が多く、1人暮らしを始めたい若者には厳しいと思う。だから物件（ワンルーム）など1人暮らしを始めやすい環境づくりが必要だと思う。（女性、18～19歳）
- ・若い人を取り込む（増やす）為に子育て支援など充実させるべき。ショッピングモール等が無く、服や雑貨等は旭川まで行かなくてはならず大変不便。せめてユニクロくらい作って欲しい。若い人にとってそういう不便さが移住したいという気持ちにならない。（女性、30～34歳）
- ・若い人が働きたいと思えるような職場が限りなく少ないこと。（若い人向けのアパレルショップ等が少ない）また、富良野に友人がいたとしても娯楽施設がほとんどなく遊べる

場所が少ないこと。地元で遊べる場所が少ないがために札幌や旭川へ行きます。興味が持てるような仕事、物が売っていないためにより都会を求めます。高齢化のため福祉サービスを充実させたり、観光のための施設（マルシェ等）を充実させるのも良いですが、若い人を定着させるためには、若い人が求めるものを用意し、作っていくことも大事なのではないのでしょうか？そして、子供を育てていくにあたって中富良野のように出産祝い金や若い人が移住、家族が移住するための援助等ももっと充実させてくれたら良いと思います。富良野は家賃が高すぎる。収入と家賃の支出があっていないように感じます。特に若い子持ちの世帯では暮らしていくのがやっとなです。（女性、20～24歳）

- ・若い人達が感心をもつような事があまりないから色々なイベントなどをする。（男性、35～39歳）

⑤移住・定住

- ・他県から移住してきた人を使って PR する。（本を出版したり情熱大陸のような番組を全国で放送する）（女性、30～34歳）
- ・富良野市は全国的に知名度が高いので、他の都府県からの移住者の受け入れを積極的に行うべきだと思います。（男性、35～39歳）
- ・移住者に優しい環境→賃貸が少ない。高い。借りにくい（不動産会社の対応）。市の移住支援サービスもあるが、短期入所住宅や公営住宅の募集定員も少ない。とても良い自然環境で移住者の希望も多いのに閉鎖的でもったいないと思います。いろいろ改善すれば必ず人口増加できると思います！（女性、30～34歳）

⑥行政

- ・人口減少がいけないと言う事が本当にわるいのか、はっきりわかっていない。どの層の人が市外に出ているのか、どんな職種がふえてほしいのか、市としての目的みたいなものが見えてこない。（男性、30～34歳）
- ・現在住んでいる若年層や子ども達への流出阻止のアプローチと移住者拡大のアプローチを全く別物と考えて対策を検討していただきたい。企画振興課だけではなく、全部署全セクションで各政策とこの問題を結びつけて業務を見直すことが最優先ではないでしょうか。そうすればどれか1つを優先的にしなくてはならない事態を防ぐことができるのでは？どれも同時進行が理想。（男性、35～39歳）
- ・富良野市がなにをしたいのか？どうするのか？わかっていない市民も多いし、なにせ情

報が少ない！イベントが終わってから「そんなイベントがあったんだ！」という人もいます。なにせ情報が少ないと興味がなくなるし、つまらなくなります。優先的に取り組むことは、市民からの注目をあつめ、信頼を得ること？(男性、30～34歳)

⑦医療

- ・総合病院（協病）のレベルアップ。協病は急外もまともにみられない。(女性、35～39歳)
- ・健康保険を払っている人、全てに年齢制限関係なく、健康診断を受けられる様にしてほしい。31歳、32歳からでは遅い！富良野市と中富良野町の合併！(女性、30～34歳)

⑧農業

- ・第一次産業を守っていかないと富良野は衰退していく一方だと思う。観光産業も第一次産業があつてこそ。離農をくい止める対策を。(女性、30～34歳)
- ・農業者においても後継者のパートナー探しに関わってくださるのはよいですが、そのパートナーとして富良野に移住してきた人に対するアフターケアがもっと必要だと思います。移住してきたパートナーがその家、その地域に定着できるように相談にのってくれる人が必要だと思います。配偶者が良い人でもその義家族、その地域になじめず離婚という人はたくさんいます。それを減らすためにもマッチングして終わりではなく、フォローもしてほしいと思います。また、農業の事業継承に関しましても、家族経営協定の締結を促進しているのでしたら、定期的に農家を訪問し、協定内容の確認など行うようにしてください。事業継承予定のはずの後継者の元に嫁に来ても、一向に継承の話が出ないのでは、農業後継者の所に覚悟を決めて嫁に来た人達をだましているのと同じになります。このようなケースが多いようではせっかく移住して嫁に来た人達をだましているのと同じになります。このようなケースが多い様ではせっかく移住して嫁に来た人達もすぐに出ていってしまいます。私がまさにそのケースですが、夫の家からの手当は月8万円です。事業継承の話は義父にもみ消されています。このままでは結婚しても子供を産むどころの話ではないのです。(女性、35～39歳)

⑨観光

- ・富良野でしかできないことに力を入れる（具体的にはむずかしいが南富良野町はカヌーに力を入れたり、常呂のカーリングとか）(男性、30～34歳)
- ・演劇工場があるのに観光客につながない。人を呼ぶには景観だけではなく、特色あるものをアピールする必要があります。今、演劇工場と富良野高校がタッグを組んで表現の授業をしています。演劇をやりたい人は一定数おりますので、三笠高校みたいに

宣伝して、寮完備にすれば若い人、興味のある人は来ると思います。(女性、35～39歳)

- ・観光にもっと力を入れて他の国、地域の人が入りやすいと思う街にする。(女性、30～34歳)

⑩教育

- ・学校の統合による設備、部活の充実。他校との交流による社会経験をさせること。地縁、血縁は強い。昔ながらのコミュニティだが一般的常識のなさ、社会性の低さが子供にも家庭にも見られる。(女性、30～34歳)
- ・高校より上の進学先が無いから実家に居たくても居られない。大学や専門学校があれば良いのに。(女性、20～24歳)
- ・介護施設を作るならそこで働く資格をとれる学校を地元で作る努力をするべきだと思う。(女性、20～24歳)

⑪高齢者

- ・お年寄りの方がゆっくりできる場所や生活に必要なものが揃う場所を増やすと、「老後も安心」または現在年金暮らしの人も「便利だし住みやすい、安心」して過ごせるのかと思います。やっぱりお年寄りの方が住みやすい場所だと長く住み続けたい町になる気がします。富良野の自然も残しつつ、お年寄りの方にとって住みやすく便利な場所になると、もっといいかと思います。(女性、18～19歳)
- ・高齢者が安心して暮らせる医療体制と介護サービスの充実(女性、35～39歳)

⑫その他

- ・収入を増加させ余裕のある生活ができれば人は出ていかない。一時的な観光に力を入れすぎている。新規参入を歓迎するのは良いが、今実際に地元で働いている人のために出来る施策が必要だと思う。(男性、30～34歳)
- ・外国人が多くいますが定住しないのはなぜなのかと思います。富良野は良い所だけど、富良野人にしか良い所ではないのかも。(女性、30～34歳)
- ・具体的な案はありませんが、もっと活性化させるため、女性がどんどん企画やそれらを実現でき、輝ける場を増やしていくと良いと思う。男性主導<女性主導の社会が今後、必ずやってくると思うから。(女性、35～39歳)